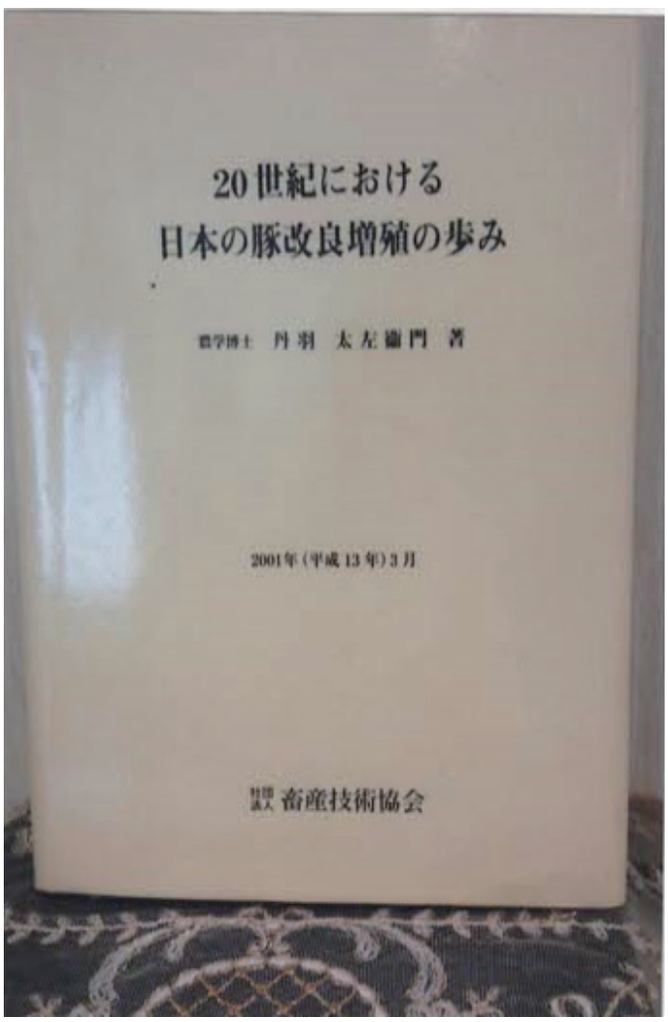
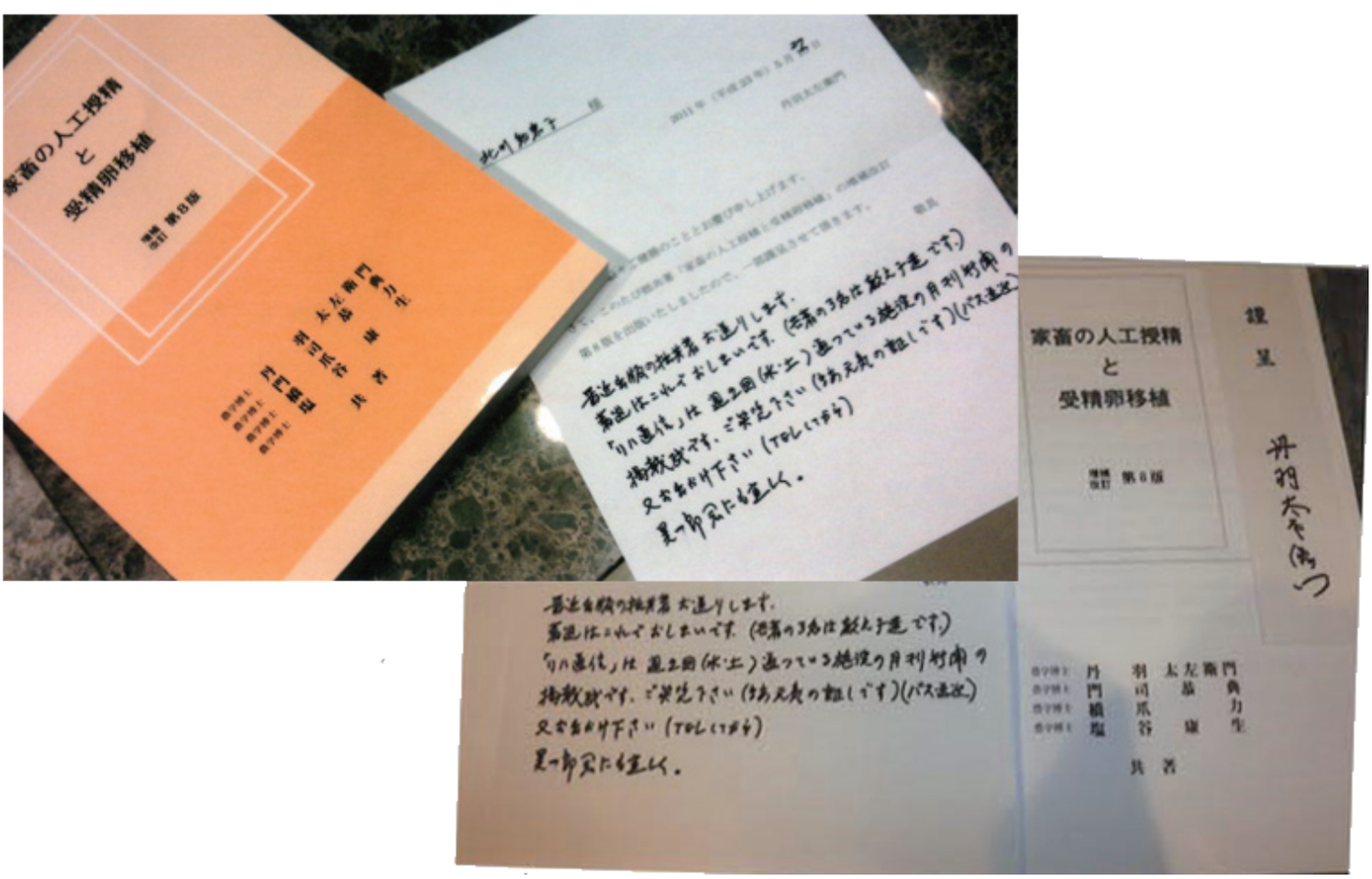
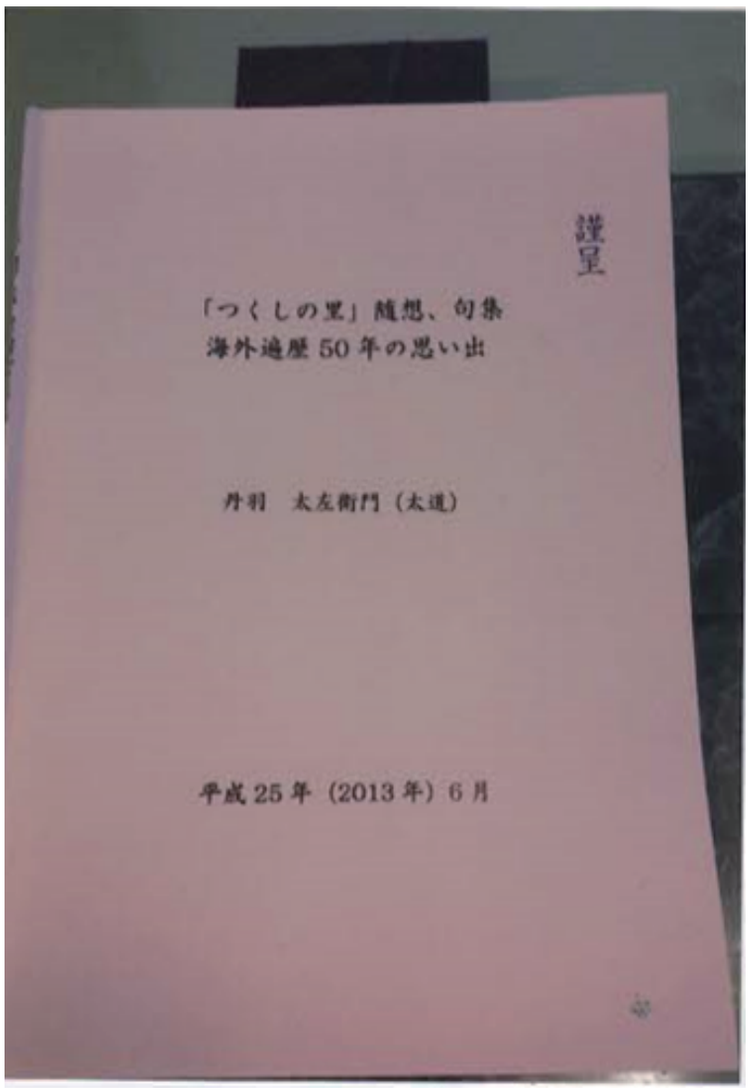
# 「父の著書と著作」－ 娘に送られた本の中から －




謹呈

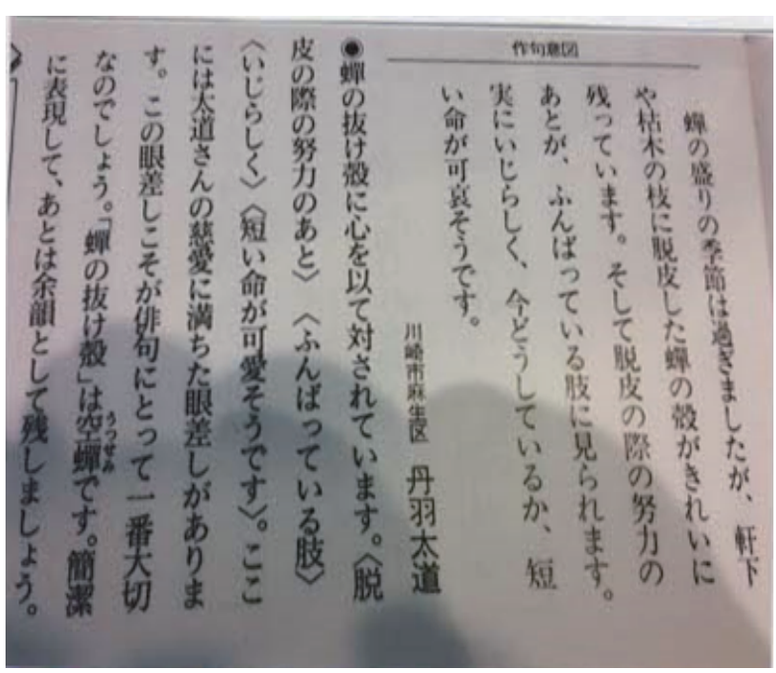
「つくしの里」随想、句集
海外遍歴50年の思い出

丹羽　太左衛門（太道）

平成25年（2013年）6月

随筆

諏訪院とは豚（Swine）と諏訪湖を掛けた父の造語

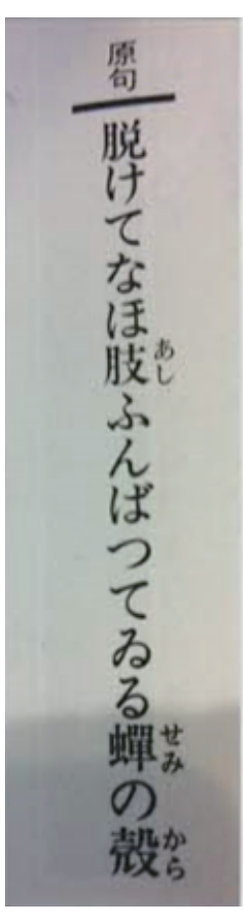

作句意図

蝉の盛りの季節は過ぎましたが、軒下や枯木の枝に脱皮した蝉の殻がきれいに残っています。そして脱皮の際の努力のあとが、ふんばっている肢に見られます。実にいじらしく、今どうしているか、短い命が可哀そうです。

川崎市麻生区　丹羽太道

◉蝉の抜け殻に心を以て対されています。〈脱皮の際の努力のあと〉〈ふんばっている肢〉〈いじらしく〉〈短い命が可愛そうです〉。ここには太道さんの慈愛に満ちた眼差しがあります。この眼差しこそが俳句にとって一番大切なのでしょう。「蝉の抜け殻」は空蝉（うつせみ）です。簡潔に表現して、あとは余韻として残しましょう。

「妻を亡くした時　父が詠んだ句」


原句

脱けてなほ肢（あし）ふんばつてゐる蟬（せみ）の殻（から）